

平成 29 年度「ともの家」事業報告

1. はじめに

国の福祉財源確保が難しくなる中、「自助・共助・公助」が当たり前になる私たちの暮らしや社会保障費削減と、福祉の方向性への不安が膨らんだ 1 年でした。

また、障がい者の法律が整備された一方で起き、社会に大きな衝撃を与えた「津久井やまゆり園」事件が記憶に残ります。容疑者は、世の中の役に立たない人間を排除した自分は英雄、との考えに変化を見せていないようです。

「優生思想」は特異な思想であることは間違いありませんが、自助を強調した国の方向性が、弱いもの排除に繋がらないように、障がいのある仲間たちと共に、日々の実践を大切にしながら、外に向けて声をあげていくことが重要と再認識しました。職員ひとり一人の意識に差はありますが、人として平等という視点は共通して持ち、仲間の支援に携わってきました。

2. 事業全般

障害者自立支援法（現・障害者総合支援法）は、仲間たちの意思決定支援の仕組みを、計画相談という形で整えました。しかし、現状はプロセスが出来上がっただけで、ニーズの掘り起こしや、彼らのねがいに添った支援にまで、行きついていません。彼らの思いやねがいを聴き、支援に繋げるために、「ともの家」のサービス管理責任者を計画相談事業所のケア会議やモニタリングに立ち会うように努めてきました。計画相談事業を「ともの家」で開設して欲しいという保護者の思いは受け止めていますので、今後の計画相談の流れの中で、タイミングを逃さない様に、前向きに検討していきます。

高齢の親御さんの急病により、女性 1 名を急きょホームで受け入れました。本当は自宅で暮らしたいという本人の意思を尊重できず、本人の混乱を受け止める事しかできませんでした。本人の意思を確認したにも関わらず、許されない状況である厳しさも痛感した 1 年でしたが、間を置かずに、支援の手を差し伸べることは出来ました。

財政面

生活介護の給付費が予算より 1000 万万円の増収

要因 職員体制加算

仲間の欠席が少なかった

授産収益は予算通り 2200 万円

内訳 仲間工賃 332 万円

作業員給与 727 万円

材料費・光熱水費・包装材料・消耗品

11000 万円

お店（500万円）と SUN（400万円）の借入金は予定通り返済
積立金 500万円

防災対策

静岡市内の作業所の仲間で立ち上げた学習会（リンク）の中の、防災に関する勉強会を中心に、施設も対策を進めてきました。加盟施設で、防災訓練見学会を開催し、厳しい意見交換や報告会を行い時期に結びました。

施設内では、防災訓練を重ね、初動の動きや、安否コールの活用訓練を行いました。

職員研修

各職員がテーマを決めて、様々な研修に参加してきました。大きなところでは、仲間の将来の行き場になるであろう「入所施設」の見学を行いました。入所施設の現場を見たことで、いま私たちがやるべき事が見えてきたと思います。

静岡市の学習会（リンク）では、講師を招いて、応用行動分析学を、通年で学び、「ともの家」の職員も多く参加しました。その他、連合会・わ開催の研修やてんかんや肢体不自由児（者）の実践を伴った研修にも参加しました。